

牡丹山小学校の概要

○アクセス

- 【自動車】 国道 7 号線「新新バイパス」竹尾 I.C. から約 1.0km, 車で約 2 分。
県道 4 号線, 通称「赤道」が校舎の西側を走っています。
- 【バス】 新潟交通の「大形線」「牡丹山線」「竹尾線」「はなみずき線」が通っています。
新潟駅より約 5.0km。
- 【JR】 東新潟駅より約 2.5km, 徒歩で約 35 分。

1 牡丹山の地名や校名は、どのような由来からなのか？

牡丹山は、昔、山というよりは古い砂丘列の一部(今はその面影はありません)でした。古くからの口伝によると、この付近を王瀬長者〈おうせのちょうじゃ〉という豪族が支配していて、長者が牡丹の花を植えて牡丹園にしたことから「牡丹山」という地名になったそうです。

また、長者の住居がお城のように広く、木戸が所々に設けられていて、上木戸、中木戸、下木戸、山木戸などと呼ばれていたそうです。その地名が、校区内には残っています。更には、新発田藩の出城である「牡丹山城」があったとも伝えられています。大変歴史のある地域です。

校名については、学校の設立場所が上木戸と牡丹山にあり、どちらの名前にするか議論されたそうです。結局、長者の牡丹園を取り入れて、牡丹の花のように明るく、美しく、強く、たくましくという多くの人の願いを込め、「牡丹山小学校」になったそうです。

2 牡丹山小学校は、どのようにして誕生したのか？

牡丹山小学校は、昭和 43 年 4 月、市内で一番のマンモス校であった木戸小学校から分離して開校されました。当初は、19 学級で児童数も 718 名でした。校舎ができるまでしばらく木戸小学校で同居し、昭和 44 年になって校舎の一部が完成して、全校児童が今の校舎で勉強を開始したそうです。昭和 45 年には体育館が完成し、昭和 46 年には隣接する牡丹山幼稚園(当初は牡丹山小学校長が兼務)もできました。平成 29 年度は創立 50 周年記念式典を挙行了しました。

3 牡丹山小学校の児童数は、どのように推移してきたのか？

開校当初は 718 名でした。逆に、児童の最大人数は、昭和 52 年の 1,522 名、39 学級です。ちょうどその頃、隣接の竹尾小学校が誕生しました。そのため学区の一部が変更され、牡丹山小学校の一部の児童は、竹尾小学校、木戸小学校に行くことになったそうです。その後、児童数が年々減少して、近年 700 名前後の児童数で推移しています。

4 牡丹山小学校は、どのような学区になっているのか？

学区は、広範囲です。東は、寺山地域(火産霊〈ひむすび〉神社付近)を境にして大形小学校区と接しています。西は、通称「赤道」を境にして竹尾小学校区、木戸小学校区と接しています。南は、新潟バイパスを越えて JR 上越新幹線の車両センター付近にまで及びます。北は、もともと阿賀野川の本流だった「通船川」を境にして東山の下小学校区と接しています。

中学校区は、木戸中学校(昭和 44 年 1 月に東新潟中学校から分離、開校する)です。木戸小学校は、卒業すると東新潟中学校に進学しますが、牡丹山小学校と竹尾小学校は木戸中学校です。

5 牡丹山小学校区内には、どのような特徴的な施設等があるのか？⇒東の名門

○新潟市東区役所

平成 23 年から東区役所が下木戸 1 丁目に移転。東区(トーク)プラザと呼ばれています。官民複合の施設で、会議や芸能発表などの地域行事でも活用されています。

○東総合スポーツセンター・寺山公園・い〜てらす

はなみずき 3 丁目には、各種のスポーツ大会等で利用される東総合スポーツセンターがあります。また平成 30 年、東総合スポーツセンター隣に寺山公園、い〜てらすが設置され、校内マラソン記録会を実施しています。